



伊地知文庫
文庫20
245



文庫20
245

故交因縁集
にまの存わ抄

伊地知氏書冊



連弁半護神の事

古く倉庫の所在は
日印そのの由を御て地引
之ん今も管神の事像を必
そる事にはかた定たる事
打付けを代この先通の地
況ふ後善光攝政良基卿
御事云々之改善加給以新
こふ又其後常具心寺并
白華良郷中道加給を
追加之号を其後尚栢

勅受直道院殿御後
る書加給之新改令事
こふは文部六年之
ノ頃东山及け書を仰く
秘一紙にて曾以他小
見有らるる之を东山殿
一冊を懐中して常々
糸語をいふ所ありて此
是程古く御史記に未
だなく書ふに書を抄年
これを秘するに故に書
詔令をひ社名のため

之と云へしそて御書と
人を身ええとけさせ給
お世の之内御入るるそ
まゝい好む之を若神
の書像をことて連寄
興りしを一人を好む瑞
女和とそそけれい令
席に必ず御書と云候
一

連歌守護

徳田守正
日中書之
山本天馬

は歌詠にれ七流詠こて
ましまは連寄の法

尚ほ人の必未にも果其の
非ざる也。一葉あるに
或して定たる法を言ふ
を以てめと成せし後
なくするたるを少き
如き愛う。一集して
書如したるは呂陽書
流るる古懐紙をその
事制。一夫七百教
たるはく。一校二枚
あるは古後。一而十句
は表二十句と云ふ今西

十句と抄の裏の六句を
の。一古き形。一古句宛
ハ字人の定たる。一作者の
句教と注を注が七其
時に出作次第の見。一
律文申す。一用分の吟
律。一新式。一以平の
を。一用分を。一吟。一
の。一古世。一古。一
あるは。一上。一七。一
制。一今。一達。一奇。一の。一法
初。一他。一達。一奇。一士。一の。一表

たゞ之最子也。寝を
まゝに寝る。是れ其の
まゝに寝る。是れ其の
まゝに寝る。是れ其の

室の室中より

半之

物事の時

宗祇老人。東下向の所
旅杯の杯の事。打立て
宗長と申す。方知事
事。左に記す。其の事
逢。奇。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

五五三

丁卯

元屯 橙 多 雁

行

水 冰 多 枕 露

露 草 系 下 飯

行

月 日 去 秋 年

多 歎 水 雲

高

山 草 本 年 為 位

川 苦

消

云 露 草 名 灯 命

并 眾 科

冰 兒

月 日 陸 露 風 水

興

車 時 雨 月 日

殘 兒

露 草 月 神 名

三 三

多 去 秋 月 日 露

露 煙

中

風 陸 出 而 麻 著

重

山重水复疑无路

柳

风桥流水自多情

雨

松风竹雨听泉声

草房

也

吾雨风

子

每作云云系

云

水月花香与桂香

水来多

云

水月花香多世

云

月花香露泪雨水

本实

云

鹿子观澄凡水虫

云

雨风流水

待

月花香去秋时

雨风去秋多雨

火

萤火不舟

水作松里霜

水洞

くくく 子子子

松水洞

子子子 子子子

拂小

風 翠鴨 塵 露 露

了了了

秋世旅

才力在き

花露多

他好

花露余才必

乙乙

色 露 露 才 物 揚 号

虫 螢 秋 世 才 恨

うたう

虫 秋 世 才

淨

水 山 君 露 露 露

心 草

清

山 水 君 露 露 川

出入

水 山 月 日 丹 門

朽

花 夜 橋 為 神 才

山

春 秋 山 隣

山

多 多 山 后 荔

月 花 山 后 荔

月 水 山 心 世

水 山 后 荔 友

秋 花 山 后 荔

石 衣 波 后 荔

身 后 荔 友

君 代 法 山 后 荔

波 后 荔 友

后 荔 友

后 荔 友

后 荔 友

后 荔 友

后 荔 友

后 荔 友

后 荔 友

疾
余玉の松 疾

舟騎 疾

巖 疾

かく
不学 疾

舟法 疾

笛 疾

螢 疾

世 疾

流水松 疾

舟 疾

高 疾

乳牛 疾

子 疾

遠
滝中山 疾

白糸 疾

長 疾

月夜令 疾

松 家 玉 の 松

頂 下 飯 簀

下 飯 心 氷 新 吾

柳 庭 吾 心 玉 簀 湊

玉 の 結 乃 橋 多 傳

風 伎 秋 命 山 乃 池

善 秋 中 山 乃 乃

善 秋 一 乃 乃 若

松 元

池 山 水 草 虫 乃 善

柳 子

水 月 虫 乃 善 乃 柳 乃

善 凡

乃 乃

乃 乃 日 乃 乃 乃

乃 乃

まき連寄

別

ふかれ—あそびのてしほ
三徳のそとて教まきわく舞

わく

ひまもよせとる色連を

まきの月影のまき神のけし

まよ

まきまき—水たけ

まきまきまきまきまき

清

埋火まきまきまきまき

まきまきまきまきまき

まよ

まきまきまきまきまき

まきまきまきまきまき

めく

めくはるもくは歳を成ん
陰にまは花車の手をひて

ゆ

御でとらまはに坊のまの
梅のつねのまの月

ゆ

二階まで目社をまね
くらをひらふらむらうと

ゆ

己一人のまを日毎に
梅のつねのつねの月

まをまき言にむき
花を風らうと教

めく

千とまのまははははは
白降のまのつねのつね

旅のまのつねのつね

玉のねにまをまのつね

めく

えれにまのつねのつね
二軒のまのつねのつね

ゆ

恨にゆらてまのつね
まのつねとまのつね

ゆ

所むつねのまのつね
まのつねとまのつね

流るる水に流るる花
花を流るる水の中

うかた

うかた橋の心を

まの弟の相違やそは

うかた

まの弟の相違やそは

あはれなる世の心

うかた

まの弟の相違やそは

あはれなる世の心

うかた

まの弟の相違やそは

あはれなる世の心

うかた

まの弟の相違やそは

あはれなる世の心

うかた

まの弟の相違やそは

あはれなる世の心

うかた

まの弟の相違やそは

あはれなる世の心

夏逢三升

三升

土音をたぐし神のみは
深のまの深き夜をとりて
羊ノのれ巻や只渚の春
けきこら松をそえたり

詩

しよあてふ松たきん
甘やまおちたなきけり

三(三)

こしやまは思ひたまは
文ぬりの初まを流くけり

わや

下巻の昔の村に
さかちりあおやまの空に

水松

流れてまきくさる川
淡丹はまきあはれや
水松く川まのた

松の物
ゆき松の物

あまのこふとたり
三升

秋運の音

うきとまふ

うかりまきとまふ

リタマのまきまきのねたて

こつぎ

おまきおまきおまき

月やうたのまき水こて

かくら

まきうらまき

うたのまきのまき

化のま

うらまき他のまき

おまきおまきおまき

おま

おまのまきおまき

おまのまきおまき

おま

おまのまきおまき

おまのまきおまき

おま

おまのまきおまき

おまのまきおまき

おま

おまのまきおまき

おまのまきおまき

おま

おまのまきおまき

おまのまきおまき

おま

おまのまきおまき

詠
くちらわらひの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あはれみの秋の月
あはれみの秋の月

あゝ連弁

廿三

秘伝にておまのふ
御正月廿三日に御座りし

色 色

世より伝はるるの御座り

御

月廿三日の御座り

御座りし御座りし

之

之より御座りし

御座りし御座りし

御

とくし御座りし

竹の御座りし

御

御座りし御座りし

御座りし御座りし

御

御座りし御座りし

御座りし御座りし

雑蓮弁

長き^{カシホ}柳の葉のたろ

男^{カシホ}馬の月^{カシホ}に^{カシホ}ま^{カシホ}の^{カシホ}懐^{カシホ}み^{カシホ}山

又

月^{カシホ}に^{カシホ}あ^{カシホ}ま^{カシホ}ち^{カシホ}よ^{カシホ}ま^{カシホ}や^{カシホ}

父^{カシホ}鳥^{カシホ}迄^{カシホ}ふ^{カシホ}一^{カシホ}片^{カシホ}れ^{カシホ}り^{カシホ}や^{カシホ}で

ひく

川^{カシホ}を^{カシホ}流^{カシホ}す^{カシホ}の^{カシホ}川^{カシホ}舟^{カシホ}を^{カシホ}と

え^{カシホ}木^{カシホ}を^{カシホ}多^{カシホ}く^{カシホ}九^{カシホ}を^{カシホ}の^{カシホ}も^{カシホ}ち

折

羽^{カシホ}子^{カシホ}手^{カシホ}折^{カシホ}れ^{カシホ}し^{カシホ}り^{カシホ}山^{カシホ}夜

玉^{カシホ}の^{カシホ}水^{カシホ}や^{カシホ}け^{カシホ}ま^{カシホ}の^{カシホ}ま^{カシホ}を^{カシホ}七^{カシホ}え^{カシホ}包

細キ

ら^{カシホ}細^{カシホ}き^{カシホ}の^{カシホ}簾^{カシホ}の^{カシホ}又^{カシホ}も^{カシホ}る

浦^{カシホ}も^{カシホ}く^{カシホ}産^{カシホ}垣^{カシホ}の^{カシホ}煙^{カシホ}打^{カシホ}靡^{カシホ}き

かく

か^{カシホ}半^{カシホ}あ^{カシホ}ち^{カシホ}れ^{カシホ}唯^{カシホ}し^{カシホ}り^{カシホ}か

や^{カシホ}の^{カシホ}出^{カシホ}の^{カシホ}け^{カシホ}れ^{カシホ}松^{カシホ}の^{カシホ}ま^{カシホ}を^{カシホ}夜

つこ

打^{カシホ}つ^{カシホ}れ^{カシホ}て^{カシホ}り^{カシホ}ら^{カシホ}れ^{カシホ}た^{カシホ}を

這^{カシホ}の^{カシホ}信^{カシホ}お^{カシホ}れ^{カシホ}る^{カシホ}孫^{カシホ}の^{カシホ}友

二店

そ^{カシホ}の^{カシホ}為^{カシホ}に^{カシホ}浪^{カシホ}し^{カシホ}ら^{カシホ}れ^{カシホ}と

衣^{カシホ}の^{カシホ}あ^{カシホ}世^{カシホ}と^{カシホ}あ^{カシホ}め^{カシホ}い^{カシホ}又^{カシホ}附^{カシホ}く

かく

あ^{カシホ}ら^{カシホ}れ^{カシホ}め^{カシホ}れ^{カシホ}い^{カシホ}き^{カシホ}物^{カシホ}を^{カシホ}見

明^{カシホ}ぬ^{カシホ}ら^{カシホ}の^{カシホ}ま^{カシホ}の^{カシホ}ま^{カシホ}山^{カシホ}有^{カシホ}三^{カシホ}使

つ又

一^{カシホ}え^{カシホ}き^{カシホ}り^{カシホ}竹^{カシホ}吹^{カシホ}の^{カシホ}風^{カシホ}は^{カシホ}は

梅屋みそあめまじり

灯

虫のくけの灯史と
芳名三巻のゆき井抄

傳

清和朝の御成敗式目
以後の只と定み只と

きまらるるまじり

灯のたよていなる

あめ

あめまじりのゆき

梅屋のあめを配るる

字の類互判

連歌五音相通秘傳

ア	カ	サ	タ	ナ	ニ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ
イ	キ	シ	チ	リ	ニ	ヒ	ミ	リ	リ	イ
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	フ	ム	ム	ル	ウ
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	ヘ	メ	メ	レ	エ
オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	ホ	モ	ヨ	ロ	オ

千尋お通の事

二顔お通 上文字一戸と
中文字一戸と

お通さん

縁をまのまの美津 （モツ）

里 （モ） 山 （ヤマ） 舟 （フネ） 舟 （フネ）

卯 （ウ） 竹 （タケ） を 今日 （イマ） こを 花 （ハナ） 名 （ナ） 名 （ナ）

瑞 （ミズ） 鏡 （カガミ） の 底 （ソコ） を 中 （ナカ） の 段 （ダン） 林 （リン） 名 （ナ）

右 （ミドリ） の 文字 （モノ） の 終 （ハジメ） 七 （ナナ） 名 （ナ） の 終 （ハジメ） と 通 （トウ）

波 （ナミ） の 底 （ソコ） の 終 （ハジメ） の 名 （ナ） は （ハ） 名 （ナ） 名 （ナ）

下 （シタ） の 終 （ハジメ） の 名 （ナ） は （ハ） 名 （ナ） 名 （ナ）

右 （ミドリ） の 文字 （モノ） の 終 （ハジメ） と 通 （トウ）

誂 （トク） 語 （ゴ） ヤ （ヤ） ア （ア） 名 （ナ） 名 （ナ）

右 （ミドリ） の 終 （ハジメ） の 名 （ナ） は （ハ） 名 （ナ） 名 （ナ）

通 （トウ） の 事 （コト）

あ （ア） の 終 （ハジメ） の 名 （ナ） は （ハ） 名 （ナ） 名 （ナ）

夏 （ナツ） の 終 （ハジメ） の 名 （ナ） は （ハ） 名 （ナ） 名 （ナ）

其 （ソノ） の 終 （ハジメ） の 名 （ナ） は （ハ） 名 （ナ） 名 （ナ）

右 （ミドリ） の 終 （ハジメ） の 名 （ナ） は （ハ） 名 （ナ） 名 （ナ）

右 （ミドリ） の 終 （ハジメ） の 名 （ナ） は （ハ） 名 （ナ） 名 （ナ）

わんぬの衣と授けり
みまお通の分は内をかくり
ましや お通の夕に上をさす
お通のよりお通と云は
平句にて云ふは他は習

△佛神への名をお通にま
之字は不交如他を
其は佛神への名を
お通まきや お通に
不交如の三定は加護
極なるの習くはそ
人の神徳を授けらる
るなり 祈禱せむは

却ら神羅の悪徳

右は佛書の時亭
大恵和尚へ授けられ
るはと云ふは
天明七年七月十八日



以下全て

白紙

